

ふしみさらだボール子育て情報



「体験や経験」
令和3年6月23日号
板橋富士見幼稚園



失敗経験は豊かな人間性を育てる

今日は「失敗」の体験についてお話しします。昔から「失敗は成功のもと」と言いますが、そもそも幼児期の子どもには、「失敗した」という感覚がありません。「失敗した」と感じ取れるのは、頭の中にある計画・予測・イメージ・価値観などと、事物とのズレが生じたときになります。幼児期ではこうした発達の様がまだそこまで到達していないので（到達するのは5歳児後半位）、幼児期の「失敗」の判断のほとんどは、大人からの押しつけによって理解されていきます。



頻繁に失敗を伝え注意し続けると、失敗自体を恐れ、自発的主体行動が抑制されたり、内向的な性格になってしまったりする可能性も出てきてしまいます。

その影響からか児童期以上の現代の子ども達は、失敗を避け、安全な道を選択する傾向にあるといわれます。慎重に計画・確認してからスタートし、成功する方法を思考しているのです。そのため少しでも失敗があると、かえって挫折感を強く感じてしまう子どもが増えている傾向にあるようです。

幼児期の子どもの行動をじっと見ていると、何かに失敗したときにはすぐに「修正」しようとしています。無意識に経験する失敗は、自分なりに緩やかに修正していくことで、試行錯誤する力が生まれ、だんだんと物事や自己の加減を育む原動力となっていきます。だからこそ保護者は、時に失敗を見て見ぬ振りの出来る寛容さを持つことも大切になるのです。

4歳頃までは、失敗を笑い飛ばす気持ちで、褒めることを大切に育ててみてください。そこから5歳以降に向けて、なぜそうなったのか、行動を振り返る言葉かけも意識していくと良いかもしれません。

きっと失敗を恐れず、チャレンジし試行錯誤を楽しむことがきる力強い子になっていきます。